

科目名	社会言語学特講	担当者	イシベ 石部 ナオト 尚登	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>社会言語学は、実際の社会の中で使用されている言語のあり方を考察の対象とする。言語は単にコミュニケーションのための道具であるだけでなく、様々な問題を引き起こし、問題を持続させ、また問題を解決するものでもある。本講義では、社会言語学の基礎的知識を修得するとともに、言語に関連する様々な現実の問題を知ること、言語はそれが話される社会と密接に結び付いていることを理解する。常に言語を通して社会を深く理解しようとする社会言語学的な姿勢を身に付けことを目的とする。</p>																										
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 社会言語学の基礎を修得し、言語の多様性を理解することを通して、豊かで柔軟な言語観を涵養する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語と社会、政治、文化の密接な関わりあいを理解できる。 ・社会の抱える諸問題を言語の観点から考えることができる。 ・自ら発見した問題に対し、実際に調査を行うことができる。 																										
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 図書館やインターネット等を使用して資料調査を行い、レポートを作成する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 基本教材および参考図書を熟読する。(自習) レポート作成のための文献検索および簡易調査を行う。(自主研究) 構想段階から担当者との対話を継続し、初稿を経てレポートを完成させる。(レポート作成・ディベート)</p> <p>【学修時間】 レポート課題ひとつにつき、完成までに以下を目安に、最低 45 時間の学修時間が必要となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本教材および参考図書の学修：10 時間 2) レポート作成のための文献調査および簡易調査の実施：10 時間 3) レポート執筆：10 時間 4) レポート推敲 (教員の添削指導を含む) と最終稿の完成：15 時間 																										
スケジュール	<p>テーマ選定の時点から担当者との対話をはじめめる。</p> <table border="0"> <tr> <td>前期</td> <td>レポート課題 1</td> <td>初稿締切</td> <td>6 月 15 日</td> <td>最終稿締切</td> <td>前期締切日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>レポート課題 2</td> <td>初稿締切</td> <td>8 月 15 日</td> <td>最終稿締切</td> <td>前期締切日</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>レポート課題 1</td> <td>初稿締切</td> <td>10 月 15 日</td> <td>最終稿締切</td> <td>後期締切日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>レポート課題 2</td> <td>初稿締切</td> <td>12 月 15 日</td> <td>最終稿締切</td> <td>後期締切日</td> </tr> </table> <p>各レポートの最終稿は学事歴で定められた日までに提出する。</p>			前期	レポート課題 1	初稿締切	6 月 15 日	最終稿締切	前期締切日		レポート課題 2	初稿締切	8 月 15 日	最終稿締切	前期締切日	後期	レポート課題 1	初稿締切	10 月 15 日	最終稿締切	後期締切日		レポート課題 2	初稿締切	12 月 15 日	最終稿締切	後期締切日
前期	レポート課題 1	初稿締切	6 月 15 日	最終稿締切	前期締切日																						
	レポート課題 2	初稿締切	8 月 15 日	最終稿締切	前期締切日																						
後期	レポート課題 1	初稿締切	10 月 15 日	最終稿締切	後期締切日																						
	レポート課題 2	初稿締切	12 月 15 日	最終稿締切	後期締切日																						
成績評価	種別	割合	評価基準																								
	レポート	80%	<p>構想 (問題発見, テーマ設定), 形式 (構成, 引用の仕方, 文章表現), 内容 (論旨の明快さ, 独創性), 課題把握の適切性で, 総合的に評価する。</p> <p>なお, いずれのレポートも, 最終稿で評価を行う。</p>																								
	観察記録	20%	<p>提出期限の順守, レポート添削への対応, 初稿から最終稿への改善の度合い (加筆, 修正) で評価する。</p>																								
履修者への要望	<p>レポートの作成にあたっては、できる限り構想の段階から担当者との対話を開始し、積極的な問い合わせやフィードバックへの対応を継続して行う。また、自身の経験を十分に活用するとともに、より多くの関連資料 (文献やデータ) を参照する。</p> <p>なお、レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数 (参考文献、注を除いたもの) を遵守すること。剽窃や無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。</p>																										

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 義永美央子・山下仁編 教材名： 『ことばの「やさしさ」とは何か 批判的社会言語学からのアプローチ』 (三元社, 2015年) ISBN: 978-4-88303-383-6 2,800円+税
	本書に収められた各論考は、日本語教育、介護、医療、ろう教育、言語景観、震災、原発など、それぞれの場におけることばの問題を、ごくありふれた感覚である「やさしさ」——それは「優しさ」でもあり「易しさ」でもある——の観点から明らかにしている。ことばを無色透明な「道具」として捉えるのではなく、日常の場におけるコミュニケーション、ひいては社会を変える可能性を秘めたものとして見る(批判的)社会言語学の入門書である。
参考図書	『社会言語学』(「社会言語学」刊行会) ISSN: 13464078 『ことばと社会 多言語社会研究』(「ことばと社会」編集委員会, 三元社) 『社会言語科学』(社会言語科学会) ISSN: 13443909
履修上のポイント	言語に起因する社会的問題を考えるにあたり、名前の付いたある「ひとつの言語」の存在を前提とするのではなく、社会の中で人々が様々なことばを話しているという事実から考察をはじめめる姿勢を身につけてほしい。多様なことばの中からある「言語」が切りだされ可視化される仕組みに目を向けることは、社会言語学の重要な特徴のひとつです。
レポート課題 1	本書の1章～8章の中から2つの論考を選択し、なぜそれらの論考を選択したのかの理由を含めて、それぞれ2,000字程度(論考2つで4,000字程度)で要約する。 留意点 : 要約に際して、可能な限り自身の経験を取り入れるよう心掛けること。
レポート課題 2	参考図書に挙げた3つの社会言語学の邦文専門雑誌に収められた論文の中から、自らが興味をもったものを1本選択し、その論文のレビューを行う(3,000字)。『社会言語学』は https://syakaigengo.wixsite.com/home で、『ことばと社会』は http://www.sangensha.co.jp/allbooks/kotobato.htm#474 で、既刊号の目次を参照することができる。 留意点 : 単なる論文「紹介」とどまらず、批判的な視点からの「レビュー(批評)」を心掛けること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 多言語化現象研究会編 教材名： 『多言語社会日本 その現状と課題』(三元社, 2013) ISBN: 978-4883033492 2,500円+税
	本書は、日本社会における「多言語化」の現象を軸に、日本を多言語社会として理解する多様な視点を提示してくれる論文集である。そのなかで、「少数言語」「言語政策」「言語サービス」「言語教育」「言語産業」「言語接触」「言語福祉」「言語差別」など、社会言語学の重要概念が具体的な事例とともに丁寧に解説されている。また、14章と15章には、各言語コミュニティや関連するトピックについて、実際に活動を行っている実践家の手による解説が収められている。
参考図書	真田信治・庄司博史編『事典 日本の多言語社会』(岩波書店, 2005) ISBN: 978-4000803052 3,600円+税
履修上のポイント	言語の多様性には、複数の言語が共存する言語「外」的な多様性と、方言などの言語「内」的な多様性の二つの側面があることを常に意識して学修を進めることで、そうした言語多様性に起因する問題が実際には身の回りに多く存在していることを能動的に発見してほしい。
レポート課題 1	本書の1章～13章の中からテーマをひとつ選択し、それぞれの著者が http://www.sangensha.co.jp/500dpi/349_tebiki_2.pdf で提示している課題のひとつについて、レポートを作成する(3,000字程度)。 留意点 : 感覚的、個人的な見解ではなく、関連する複数の論文を参照した上で論理立てて論じ、その時点での結論を提示すること。
レポート課題 2	自身の身の回りの社会言語学の問題を見だし、それについて実際に簡易的な調査を行い、その成果を報告する(5,000～6,000字)。なお、教材および参考図書は日本の言語状況を扱ったものであるが、レポート課題の調査地は日本以外の国や地域に設定してもかまわない。 留意点 : 調査の成否、得られた結果の新規性よりも、問題発見と課題設定を重視して取り組むこと。調査計画や調査方法については、担当者との十分な相談の上決定すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章～3 章の精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 4 章～6 章の精読
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 7 章～8 章の精読
第 4 回	レポート課題 1：レポートの構想
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	課題論文の検索
第 9 回	課題論文の精読
第 10 回	課題論文の批判的検討
第 11 回	関連資料（文献，論文）の検索，参照
第 12 回	レポート課題 2：レポートの構想
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章～3 章の精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 4 章～6 章の精読
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 7 章～9 章の精読
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の 10 章～13 章の精読
第 5 回	レポート課題 1：レポートの構想，関連文献の検索
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の 14 章～15 章の精読
第 10 回	レポート課題 2：レポートの構想
第 11 回	簡易調査の計画
第 12 回	簡易調査の実施
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成